

光センサー選果機

収穫されたみかんは、地域の大型選果場で選別されます。選果場には、果実に光を当てて1個1個の糖度(甘さ)とクエン酸(すっぱさ)を計ることができる光センサー選果機と呼ばれる機械が導入されています。この選果機で選別することにより、味のバラツキが少ない、品質が保証されたみかんが市場に出荷されています。現在、愛媛県内のほとんどの農協で光センサー選果機が導入されています。



光センサー選果



大型の選果場

みかんの加工

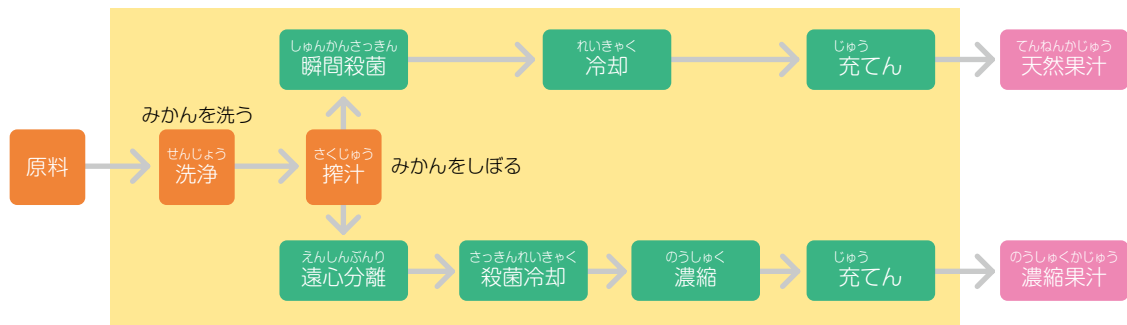
2012年(平成24年)に全国で生産されたみかんの総量は、84万6,300トンでした。このうち、加工原料に利用されたみかんは約8パーセントの6万5,300トンです。そのうちの66パーセントの4万3,200トンがジュースに加工され、缶詰には34パーセントの2万2,000トンのみかんが利用されました。

みかんの生産量とその用途

	生産量(t)	生食用(t)	輸出用(t)	加工品用(t)			
				果汁	かんづめ	ジャム	合計
昭和61年 (1986年)	2,168,000 比率(100%)	1,505,400 (69.4%)	20,600 (1.0%)	500,900 (23.1%)	140,800 (6.5%)	300	642,000 (29.6%)
平成3年 (1991年)	1,579,000 比率(100%)	1,249,300 (79.1%)	12,700 (0.8%)	199,400 (12.6%)	117,500 (7.4%)	100	317,000 (20.1%)
平成8年 (1996年)	1,153,000 比率(100%)	1,041,100 (90.3%)	4,900 (0.4%)	67,600 (5.9%)	39,300 (3.4%)	100	107,000 (9.3%)
平成13年 (2001年)	1,282,000 比率(100%)	1,155,500 (90.1%)	5,300 (0.4%)	94,600 (7.4%)	26,500 (2.1%)	100	121,200 (9.5%)
平成18年 (2006年)	841,900 比率(100%)	770,400 (91.5%)	2,700 (0.3%)	51,900 (6.2%)	16,800 (2.0%)	100	68,800 (8.2%)
平成24年 (2012年)	846,300 比率(100%)	778,500 (92.0%)	2,500 (0.3%)	43,200 (5.1%)	22,000 (2.6%)	100	65,300 (7.7%)

社団法人日本果汁協会「果汁関係資料」

みかんジュースができるまで



様々な種類のみかんジュース



写真提供：株式会社えひめ飲料

★みかんは輸出されている

みかんは、明治時代から外国に輸出しています。日本産の輸出量は、かつて多かった時には約 20,000 トンありましたが、現在は 2,500 トンほどで以前に比べると大きく減っています。おもな輸出先はカナダで全体の約 80 パーセントとなっており、その他アメリカや香港などに輸出しています。カナダでは「クリスマスオレンジ」、アメリカでは「テレビオレンジ」とよばれ、クリスマスの食べ物として人気があります。